

令和4年度
中国学園大学・中国短期大学
外部評価実施報告書

令和4（2022）年 9月
中国学園大学・中国短期大学

I. 中国学園大学・中国短期大学の外部評価について

1. 本学園の外部評価制度について

本学園では、7年毎の認証評価機関による認証評価とは別に、内部質保障の有効性及び自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外の有識者による評価を行い、教育研究水準の向上と組織運営の活性化に資する提言をいただくために、令和4年（2022）年度から外部評価を実施することとなりました。

本学園の外部評価は、委員会規程にあるように、3名の有識者に外部評価委員を委嘱し、本学園の内部質保障の取組及び自己点検・評価の結果について検証・評価をしていただきます。主な評価の観点とは、以下の4点です。

- | |
|--|
| 1. 本学の教育活動・教育課程に関する優れた点及び改善を要する点について |
| 2. 本学の学生の活動や学生支援に関する優れた点及び改善を要する点について |
| 3. 本学の教職員・学園運営・地域連携に関する優れた点及び改善を要する点について |
| 4. その他、本学に関する評価や意見、改善に向けての提言等について |

外部評価委員には、これらの観点から、中国学園大学及び中国短期大学の自己点検・評価報告書の内容を抜粋した「外部評価資料」の内容をご検討いただき、その結果を「外部評価報告書」を作成いただきます。各委員の「外部評価報告書」の内容をまとめて、本学の教育研究水準の向上と組織運営の活性化に資するご提言をいただきます。

2. 令和4年度の外部評価について

外部評価委員会規程に基づき、3名の学外有識者に外部評価委員をお願いしました。

氏名	所属等	備考
はぎはら やすまさ 萩原 康正	岡山県立邑久高等学校 校長	教育機関の教職員として
くさか ともあき 日下 知章	山陽新聞社専務取締役 岡山経済同友会教育・社会貢献委員会委員長	経済界の有識者として
もりた みちこ 森田美智子	元本学非常勤講師（～H29） 本学公開講座指導者 岡山市北区撫川在住	大学のキャンパスが所在する地域の有識者・本学卒業生として

本年度は、外部評価を実施する初年度ということもあり、3名の外部評価委員に、事前に中国学園大学及び中国短期大学の自己点検・評価報告書の内容を抜粋した「外部評価資料」をお届けし、それを検討していただいた結果を住野好久自己点検・評価委員会委員長が面談を通じて聴取し、それを元に「外部評価報告書」を作成するという形式で外部評価及びご提言をいただきました。実施時期は、令和4年9月13～21日です。

今後、各委員からいただいた外部評価及びご提言をまとめた「外部評価実施報告書」を本学園の内部質保障推進委員会、自己点検・評価委員会、及び、関係各部署で検討し、来年度に向けた改善策を策定いたします。

Ⅱ. 外部評価報告書

<萩原 康正 委員（岡山県立邑久高等学校校長）>

1. 本学の教育活動・教育課程に関する優れた点及び改善を要する点について

- ・学生を育て、きちんと就職させていくために精力的に取り組まれている。
- ・教育活動の改善のためのFD活動も行われ、教員が教育活動を充実させようとしていることがわかる。
- ・アドミッション・ポリシーは何に関心のある生徒を受け入れようとするのか、その学科の特色を具体的に示しているものだとわかりやすい。ぼんやりとあれもこれもと並べられると逆にどんな生徒が求められているのかわかりにくい。また、アドミッション・ポリシーが入試にどう関係しているかわからないため、高校教員にはどうでもいいものとなっている。
- ・本校（邑久高校）の場合、主に経済的な理由から短期大学を希望する生徒が多くいる。将来どのような職に就きたいのかが決まっていな生徒も多く、短大総合生活学科のようないろいろな資格を取得できて、入学後に就職先を決めていくような教育課程はウケがいいし、どんなことが学べ、どんな資格が取れるのかがガイドブックにわかりやすく書かれていていい。情報ビジネス学科の「メディア」に惹かれる生徒もいる。もっとアピールしてもいい。
- ・国際教養学部は何が売りなのかわかりにくく、どんな就職先になるのかイメージしにくい。ガイドブックもカタカナが多く、数字が少なく、写真もわかりにくく、高校生に英語ができないとダメだと思われて敬遠されている。本校は佐々木先生にお世話になっているが、こうしたことが伝わってこない。

2 本学の学生の活動や学生支援に関する優れた点及び改善を要する点について

- ・部活動・サークル活動は、学部・学科を越えて学生が交流し、大学生活を充実させるために重要なことである。コロナ禍でのダメージを乗り越えて充実させてほしい。
- ・寮があることも重要。経済的に困難を抱える学生が使える仕組みをつくってはどうか。
- ・学園独自の奨学金等の制度があるのも重要。だが、あまり知られていないのではないか。家族に卒業生・在学生がいる場合の割引制度等は学生募集に使えるのではないか。これについては、高校生や保護者に伝わるような工夫が必要である。
- ・本校にも支援を必要とする生徒がおり、大学でそうした学生に対する合理的配慮について取り組まれているというのはありがたい。障がい学生に対する支援は容易ではないが、そうした取組を行っていることもアピールしてはどうか。
- ・学生が教職員に相談することが少ないというアンケート結果は気になる。例えば、オフィス・アワーはただ研究室にいて対応する時間を確保するだけでなく、積極的に学生と面談する時間としてはどうか。
- ・就職支援では、地元の市町への就職を希望する生徒が多い。例えば、保育士の場合は、地元の瀬戸内市の公立保育所への就職を本人も保護者も高校教員も希望・期待している。本校生徒の希望が多い短大保育学科から公立の保育士になる実績をつくってほしい。

3. 本学の教職員・学園運営・地域連携に関する優れた点及び改善を要する点について

- ・大学の先生には高大連携の取組を強化していただきたい。大学の入試広報と高校進路課のつながりよりも、直接3年生に関わっている教員とのつながりをつくるために、大学教員が高校の教育活動に参画する高大連携を重視してほしい。そうすることで、高校教員が中国学園について理解でき、中国学園と連携するようになり、高校生に紹介・推薦するよう

になってく。例えば、食物系だと津山や倉敷より中国学園が交通の便がいいので、地の利を活かして高校生が大学に行く機会もつくってほしい。

- ・高大連携を通して、1・2年生のうちから大学の先生との接点があることで、進路先として専門学校ではなく大学・短大を選択肢にすることができる。

4. その他、本学に関する評価や意見、改善に向けての提言等について

- ・令和3年度入学者から大学も短大も入学者数が減っている。なぜそうなったのか、その分析は行われているのか。定員確保ができていない理由を多面的に分析した上で、対策を練る必要がある。
- ・入試広報については、まず「大学案内」が十分になく、教員や生徒に十分行き渡っていないため、新しい情報が届いていない。昔の情報で判断されている。ターゲットになる高校生として普通科が想定されていて、専門学科の高校生へのアピールが弱い。例えば、ガイドブックの写真の生徒の多くは普通科出身である。専門学科の生徒に選ばれるようなアピールの仕方が求められる。
- ・入試については、総合型選抜を重視することではないか。オープンキャンパス時の個別面談もいい。学校推薦型の指定校推薦は、指定校で出すメリットがないとみんな総合型選抜で受験することになる。もっとメリットを打ち出してほしい。
- ・入試対策、例えば、小論文の採点のポイントや願書の書き方等を進路課に教えてほしい。高校側が自信をもって指導できることが重要。
- ・最後に、中国学園の教職員が前向きに、学生集め・学生教育に取り組まれていることはよくわかった。きちんと校内の研修活動に取り組み、自己点検・評価もされている。後は、こうした姿をどうやって認知してもらおうかということではないか。そのためにも、ターゲットを明確にした広報活動、高大連携を通じた高校の担任と大学教員とのつながり等について検討してほしい。

<日下 知章 委員（山陽新聞社専務取締役、岡山経済同友会教育・社会貢献委員会委員長）>

1. 本学の教育活動・教育課程に関する優れた点及び改善を要する点について

- ・各学部・学科が三つのポリシーを詳細に定めて教育活動に取り組んでいることが分かった。中国学園大学の学部・学科構成からは、時代のニーズに沿い、少子化社会に合わせて育成すべき人材を絞り込んでいるという姿勢がうかがわれる。それに対して、短期大学の「総合生活」「情報ビジネス」という学科名称では、どのような特色があるのかが伝わりにくいのではないかと。
- ・教育活動の改善に向けて、アセスメント・ポリシーを策定し、教職員によるFDやSDといった研修活動がきちんと行われている。この度の外部評価も含めて、教育の質を保証するための仕組みができている。
- ・コロナ禍にもかかわらず、授業に対する学生の満足度は9割を超えている。対面での授業を重視してきたと聞いたが、そうした大学の姿勢が学生に評価されたのだろうと思う。また他方で、授業についていけない学生が15%ほど存在している。授業についていなくても満足しているということは、そうした学生へのフォローがきちんと行われ、学生の学びへのモチベーションが維持されているからだろう。授業と学修支援との一体的な充実が必要である。
- ・山陽新聞でも紹介されたユーチューブ動画「岡山市魅力不思議探検隊」（国際教養学部 佐々木ゼミ）は面白い。「B級観光名所」と呼びたくなるような隠れたスポットを学生目線で取り上げており、とても新鮮。長尺ではなく3分程度にまとめているのが現代にマッチしていると思う。海外に発信するために多言語のテロップを付けてはどうだろうか。
- ・学生たちには岡山の経済の担い手として頑張っていただきたい。岡山の企業が求める人材をしっかりと育ててほしい。とくに、グローバル人材やデータ・サイエンス系の力量を持った人材が地方では足りない。山陽新聞社ではInstagramやTikTok、メタバースなど、若者に浸透してきた新しい文化に強い人材も求めている。

2. 本学の学生の活動や学生支援に関する優れた点及び改善を要する点について

- ・女子バレーボール部が今年5月に中四国学生選手権で4年ぶりに優勝した。県民にとって明るいニュース。元岡山シーガルズの山口舞さんが学園の広報担当に就任され、地元の大学とプロチームとの絆が深まることは、地域の活性化という点で大きな意義があったと思う。
- ・女子バレーボール部や上述した「岡山市魅力不思議探検隊」等、学生たちの素晴らしい活動が取り組まれていると思うが、その発信・広報がやや弱いのではないかと。学生たちが輝いている姿を発信することが、中国学園の魅力を発信することになる。
- ・バリアフリー・マップの作成など、障がい学生への対応が進んでいる。LGBTQ+に対する対応はどうだろうか。意識して進めてほしい。企業側もなかなか追いついておらず、社会全体の今後の課題だが…。
- ・インターンシップは学生が企業を知りだけでなく、企業にとっても若者の考え方や感覚を学べ、社業の新規アイデアのきっかけを得る機会となる。山陽新聞社ではかつて他大学と長期インターンシップで学生を受け入れたこともある。企業側も態勢を整え、大学側も奨励するなど、多くの学生が長期インターンシップで企業で研修できるような、そんな社会を目指していきたい。

3. 本学の教職員・学園運営・地域連携に関する優れた点及び改善を要する点について

- ・ボランティアや地域貢献活動を奨励し、積極的に進めているという好印象を強く持ってい

る。東日本大震災が起きた時に宮城県気仙沼市に学生ボランティアを派遣したことはこれまでも報道されてきた。また、今年6月には創立60周年に合わせて大学周辺の清掃奉仕を行ったことが弊紙（山陽新聞）でも紹介されていた。地域への恩返しを実践することはすばらしく、高く評価したいと思う。

- ・今年4月に岡山観光コンベンション協会、中島ホールディングス、さらにはJA全農おみやまと連携協定を結び、観光振興、人材育成、レシピ開発などに取り組むなど、県内他大学と比較しても地域連携で成果を上げている。短大が岡山市消防局と連携し、幼児向けの防火教育カードゲームをつくるといった活動も模範となる事例だ。
- ・大学図書館の地域市民への開放は素晴らしい。大学がすべき地域貢献の一つと思う。

4. その他、本学に関する評価や意見、改善に向けての提言等について

- ・私立大学で理事長が非常勤というのは珍しいのではないか。これまで、現場の自主性を尊重して経営されてきたということだろうか。ただ、財務状況は過去3年間支出超過となっており、経営体制の見直し・改善が求められる。
- ・人件費比率が全国平均よりも随分高くなってしまっているのは問題である。ただ、大学というのは多様な分野の教員がいることが強みであり、安易に人員削減などはできない。大切なことは入学者を確保し、定員充足率を上げることである。
- ・そのためには、中・長期の計画を立てて社会や高校生が求める教育を実現する改革に取り組む必要がある。山陽新聞社では、2050年を見据えた将来計画を若手社員が参画して策定する取り組みを始めている。中国学園でも、学生を含めた若い世代の声を聞き、反映させた中・長期の計画を策定してはどうだろうか。
- ・学生の確保には広報活動が欠かせないが、中国学園のWEBサイトはスマートで、整然としているが、もう一工夫ほしい。学生の姿が見える魅力的なページが埋没し、見えない。大半の若者はスマホで閲覧するのだから、スマホでの見え方を意識しながら、魅力をパッと伝えるための工夫をしてほしい。
- ・中国学園の評価をする中で、他大学と比べてどうなのか、そうしたデータがほしいと思った。そうしたデータを個々に収集するのは大変なので、各大学で自己点検・評価に使えるような共通のデータを大学コンソーシアム岡山で一括して収集するような取り組みも必要ではないかと思った。

以上

<森田 美智子 委員（本学卒業生）>

1. 本学の教育活動・教育課程に関する優れた点及び改善を要する点について

- ・授業に対する学生の満足度が高いことは素晴らしい。アドミッション・ポリシーにあるような「学びたい」「身につけたい」という意欲を持った学生たちなのだろうから、楽しく学べて「知識を深められた」と実感できるような授業を実践してほしい。
- ・教職員に授業内容や学習に関する相談をした学生が少ないのは問題ではないか。一人一人の学生と向き合って個別対応するのが本学の伝統である。授業についていけない学生もいるので、丁寧な学習支援に取り組んでほしい。

2. 本学の学生の活動や学生支援に関する優れた点及び改善を要する点について

- ・バレーボールやソフトボールの活躍を新聞で見ている。部活動やサークル活動は対外的なアピール力があるので、しっかりとアピールしてほしい。また、様々なサークル活動に地域の人たちが交流できたり参加できたりする機会があればいいのではないかな。
- ・コロナ禍によって休止しているサークル等は大学の支援によってなるべく早く活動再開できるようにしてほしい。学生たちがキャンパスを居場所と感じ、学生生活を充実させられるようなサポートを充実させてほしい。休日のキャンパスは門が閉ざされ、学生の姿もなく、とても寂しい。

3. 本学の教職員・学園運営・地域連携に関する優れた点及び改善を要する点について

- ・図書館が地域に開放されており、地域の人が参加できるイベントがあるのはとてもいい。地域の人にも喜んでいる。
- ・地域の人が学園の評判を広げてくれるため地域を大事にしてほしい。未だに地域の方から「中短には音楽科があるんでしょ」と言われることもあり、学園のことが地域に伝わっていない。また、地域と大学をつなぐ拠点として音楽ホールを改築してほしい。
- ・地域とつながる上で、教職員の「あいさつ」は重要である。事務の方々は笑顔で挨拶して下さり好感が持てるが、教員は・・・。「あいさつできる教員」になってほしい。

4. その他、本学に関する評価や意見、改善に向けての提言等について

- ・学園の評価について、その所在地域の住民、特に古くから住んでいらっしゃる方々の声をお聞きすることも大切と思う。本学が庭瀬に作られたとき、地域住民は「我が町に大学ができた！」と喜んだものだったが、今はどうだろうか。地域と共にある学園であってほしい。

Ⅲ. 外部評価に関する規程

中国学園大学外部評価委員会規程

(設置)

第1条 中国学園大学（以下「本学」という。）は、外部評価を実施する機関として中国学園大学外部評価委員会（以下「委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学における内部質保障の有効性及び自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外の有識者等による評価を行い、教育研究水準の向上と組織運営の活性化に資する提言を行う。

(任務)

第3条 委員会は、本学が実施する内部質保証の取組及び自己点検・評価の結果について検証及び評価を行う。

2 委員会は、前項の評価の結果を本学自己点検・評価委員会に報告する。なお、自己点検・評価委員会はこれを内部質保証推進委員会等に報告する。

(委員会の構成)

第4条 委員会は、人格識見が高く、かつ、本法人の振興及び発展に関心と理解のある学外の学識経験者等3名をもって構成する。

2 委員は、学長が委嘱する。

3 前項の委員の任期は、原則として2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 第1項の委員に欠員が生じたときは、速やかに後任委員を選出する。ただし、後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 外部評価委員会に委員長を置く。

6 委員長は、委員の互選により推薦し、学長が委嘱する。

7 委員長は、外部評価委員会を代表し、その業務を統括する。

(委員会の招集)

第5条 委員会の招集は、必要に応じ学長が行う。

(守秘義務)

第6条 委員会の委員は、この規程に基づく評価を行う際に知り得た事項のうち、秘すべきとされた事項は、他に漏らしてはならない

(庶務)

第7条 委員会の事務は、事務部総務企画課が担当する。

(改廃手続)

第8条 本規程の改廃は自己点検・評価委員会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、令和4年9月7日から施行する。

中国短期大学外部評価委員会規程

(設置)

第1条 中国短期大学（以下「本学」という。）は、外部評価を実施する機関として中国短期大学外部評価委員会（以下「委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本学における内部質保障の有効性及び自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外の有識者等による評価を行い、教育研究水準の向上と組織運営の活性化に資する提言を行う。

(任務)

第3条 委員会は、本学が実施する内部質保証の取組及び自己点検・評価の結果について検証及び評価を行う。

2 委員会は、前項の評価の結果を本学自己点検・評価委員会に報告する。なお、自己点検・評価委員会はこれを内部質保証推進委員会等に報告する。

(委員会の構成)

第4条 委員会は、人格識見が高く、かつ、本法人の振興及び発展に関心と理解のある学外の学識経験者等3名をもって構成する。

2 委員は、学長が委嘱する。

3 前項の委員の任期は、原則として2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 第1項の委員に欠員が生じたときは、速やかに後任委員を選出する。ただし、後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 外部評価委員会に委員長を置く。

6 委員長は、委員の互選により推薦し、学長が委嘱する。

7 委員長は、外部評価委員会を代表し、その業務を統括する。

(委員会の招集)

第5条 委員会の招集は、必要に応じ学長が行う。

(守秘義務)

第6条 委員会の委員は、この規程に基づく評価を行う際に知り得た事項のうち、秘すべきとされた事項は、他に漏らしてはならない

(庶務)

第7条 委員会の事務は、事務部総務企画課が担当する。

(改廃手続)

第8条 本規程の改廃は、自己点検・評価委員会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、令和4年9月7日から施行する。

外部評価委員会様

令和4年9月22日
中国学園大学・中国短期大学
学長 千葉 喬三

外部評価への対応報告書

この度は、中国学園大学・中国短期大学外部評価委員として本学の教学及び経営に関して貴重なご意見・ご提案をいただき、大変感謝しております。

いただいたご意見・ご提案を真摯に受けとめて、以下のような改善・充実を図ってまいりたいと考えております。

引き続き、本学の教学及び経営につきまして、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

1. 本学の教育活動・教育課程に関する改善・充実に向けて
2. 本学の学生の活動や学生支援に関する改善・充実に向けて
3. 本学の教職員・学園経営・地域連携に関する改善・充実に向けて
4. 本学の広報や学生確保に関する改善・充実に向けて